地域医療の課題に対する住民の理解を深める啓発講座等について

資料4

県立新発田病院の取組

・2022年7月：NIC健康セミナーにて講演「地域医療って何？」
・2023年9月：新発田病院の市民講座にて救急、地域連携につき講演予定

県立坂町病院の取組（別紙1参照）

・今年度中に坂町病院の医師による「健康ナイトスクール」を開催予定。
令和元年度は病院の将来展望や終末期医療等についてミニ講演会を開催し、市民と情報交換

県立リウマチセンターの取組

・2023年10月：リウマチセンター主催の市民公開講座をイクネス新発田で開催予定

新潟聖籠病院の取組（別紙2参照）

・聖籠町地域づくり講演会（聖籠町主催）への講師派遣
・出前講座
・聖籠町健康セミナー（当院主催）

全国健康保険協会新潟支部の取組（別紙3参照）

・大学生向け講座
・メールマガジン（協会けんぽ新潟支部「ときメール」：毎月1回定期配信）
・広報誌（けんぽ通信：毎月1回定期発行）

村上市の取組

・村上・岩船地域の医療を考えるフォーラム（村上・岩船地域医療懇談会事業）
住民を対象に地域医療の現状と将来を考える講演、シンポジウムを実施
・在宅医療普及啓発講演会　（村上地域在宅医療推進センター事業）
住民等を対象に在宅医療の普及啓発のため、講演会や映画の上映会などを実施

村上健康福祉部の取組

・「上手な医療のかかり方」冊子作成、管内全戸配布
・住民等を対象とした、地域医療の現状と課題について理解を深めるための「病院見学会」を開催

みんなで支える地域医療推進事業の概要

地域医療をめぐる課題

○ 人口構造の変化による医療ニーズの変化や、医師の働き方改革などに対応した医療提供体制を構築していくためには、限られた医療資源をいかに効率的に活用していくかが課題となる。

○ そのためには、救急車の適正利用や不要な受診を避けるといった、医療との上手な関わり方をはじめ、医療資源の集約化や下り搬送等の必要性などについて、住民の理解を深め、住民の行動変容を促していく必要がある。

→ **持続可能な医療提供体制の構築に向け、地域医療をめぐる課題について住民や医療関係者等が考える取組を強化**

主な取組事例

○地域医療に関する協議の場の設置

・地域において医療を取り巻く環境や課題を住民や医療関係者等が協議する場を設置。

・地域医療構想の策定も踏まえ、救急医療や在宅医療など、地域の医療体制の機能分化・連携、在宅医療推進に係る課題と対応等について住民や医療関係者等が検討。



○住民講座・講演会等の開催

・県内には、「地域医療魚沼学校」など住民参加型の講演会・講座等により、地域の医療資源に対する住民の理解が進んでいる地域もある。

・地域の限られた医療資源について、住民の理解を深めるための、住民講座・講演会等を開催する。



○住民に対する啓発事業の実施

・地域医療について、関係者が協議するだけではなく、住民自身が地域の医療資源に対する理解を深めるための啓発事業を実施。

・住民に対し、適正な受療行動を促し、地域の限られた医療資源を最大限に活用していくことを目指す。



地域の限られた医療資源を有効活用し、住民や医療関係者、行政等との協働により、持続可能な地域医療提供体制の確保を目指す

みんなで支える地域医療推進事業の進め方

○地域医療構想の策定も踏まえ、地域医療に関する課題について、住民や医療・行政関係者が考える取組を強化（Ｒ５予算額：400千円／基幹局、300千円／一般局）

１　地域医療に関する協議の場（協議会）の設置・運営

①地域医療に関する課題への実務的な対応や②利用する側から取り組む必要のある課題などについて、住民や医療関係者等が検討するための協議の場を設置・運営

・構成員（想定）
医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、地域の基幹的な病院、高齢者施設、
医療に関する住民代表（住民講座等の開催後に選任もあり得る）、消防本部、市町村、保健所　など

※救急や在宅などの既存の会議の活用や再編も想定

２　協議の場において地域の課題を抽出し、対応策を検討

３　住民講座や講演会等の開催、啓発事業の実施

地域医療の課題に対する住民の理解を深めるための啓発講座等を実施

・連続講座または巡回講座
・講演会、フォーラム、シンポジウム等
・啓発チラシ作成等による広報活動

住民が自ら参加するワークショップを組み入れた開催を推奨

４　各地域の課題や取組を情報共有

各地域の取組をとりまとめ、フィードバック（報告会開催、データベース化）